

日本海を駆ける

⑱ 鳥取外洋ヨットクラブ

自然と一体

青い空、白い波、どこまでも続く水平線。風の力を使つて海の上を走るヨットの魅力に取りつかれた男たちがいる。『鳥取外洋ヨットクラブ』のみなさんだ。

「風を感じながら自然を体感できる心地よさ。ヨットは、風がないと全く動かない乗り物だけど、海の上で風を待っている時間もすごく楽しい。あご（トビウオ）が飛んでい



会長の岸田さん

たり、イルカと遊んだり…。大自然にいらって感じですよ」と舵を取りながら話すのは、日焼けした笑顔がまぶしい会長の岸田悟さん。（吉成・四十五歳）

クラブは、昭和五十七年にヨット愛好者が集まって設立。現在、会員の数は六十名で、ヨットの数は三十隻にもなる。

「うまく走らせるにはチームワークが重要です。三〜四人の気の合う仲間たちと船を操るのが一番ですね。ヨットは厳しい自然が相手。天候、風力、風向きなど千差万別。予想のつかないアクシデントもありますよ」と岸田さんが平然と語るなかに自然の厳しさを感じた。

ヨットクラブの活動

クラブの活動は、ヨット競

技が中心だが、そのほかにもさまざまな活動をしている。

その一つが「NPO法人岩美自然学校」の子どもたちをヨットに乗せる体験航海である。ヨットを操ることで、自分の役割を自覚させ、今何をしなくてはならないかなど、団結力や判断力を養ってもらおうと実施している。

「ヨットに乗り、チームワークの大切さと、自然のすばらしさや脅威を感じてもらい、自然との付き合い方を学んで欲しい」と岸田さん。

またクラブでは、鳥取港で春と秋の年二回ゴミ清掃活動を行っている。最近のマリンレジャーブームで鳥取港に停泊する船が増えていくのに伴い、ごみの量も多くなっている。海を愛する会員たちにとって、マナーの悪さはとても悲しいことであり、この活動を続け、港を利用する人たちにごみを捨てないよう呼びかけている。

ヨットでの新たな出会い

昨年、クラブのメンバーが二日間をかけてヨットで韓国



ヨットを操るクラブのメンバー

の釜山を訪問した。これがきっかけとなり、釜山のジャイアントヨットクラブとの交流が始まった。今年釜山のヨットクラブのメンバーが鳥取を訪れ親睦を深めている。

「国は違ってもヨット好きな者同士、言葉の壁も無くすぐに打ち解けましたよ。この日本海を通じて交流の輪をもっと広げていくことが私の夢ですね。来年は、境港（鳥取）、香住（兵庫）、舞鶴（京都）のヨットクラブにも声をかけ、釜山で交流会を開こうと考えています」と岸田さんは海を眺めながら語った。

ヨットの魅力に取りつかれた男たちは、夢に向かって正確な舵を取る。